

京都駅ビル ファッションカンタータウィーク 2009

『伝統の継承～匠の技～』

京繻、京友禅、京鹿の子絞など、今に生きる匠の技を間近でご覧ください。京都伝統産業バンクの職人が、交替で毎日実演いたします。「京都」と「ファッション」の祭典『ファッションカンタータウィーク 2009』の一環として開催されます。

1. 会 期 6月22日（月）～28日（日）
 10:00～19:00 ※ 途中、休憩を取らせていただきます
2. 会 場 京都駅ビル2階 南北自由通路インフォメーション前

3. 実演スケジュール

月 日	業種名／工房名	業種名／工房名
6/22 月	京繻／京繻すぎした	京友禅／染色工房いふう
6/23 火	染色補正／和光屋	和布／アトリエのぶ
6/24 水	京鹿の子絞／アート英蘭工房	京友禅／卯の花染工房 河合
6/25 木	京繻／西刺繻	京友禅／片栗染工房
6/26 金	染織図案／国際図案作家連合	京友禅／楽彩堂 このはずく
6/27 土	染色補正／岡田美整	京友禅／アトリエ・ドウセン
6/28 日	京繻／中村刺繻	京友禅／細井友禅

4. 業種解説

京友禅（きょうゆうぜん）

手描友禅は江戸時代に京都の絵師宮崎友禅斎によって確立されたと伝えられています。扇絵師として人気の高かった宮崎友禅斎が、自分の画風をデザインに取り入れ、模様染めの分野に生かしたことで「友禅染」が生まれました。色数が多く絵画調の模様を着物に染める友禅染は、町人文化の栄えた江戸時代の中期に盛んに行われるようになりました。明治時代には、型紙によって友禅模様を染める「写し友禅染」が開発されました。

京鹿の子絞（きょうかのこしぼり）

絞染は、日本では千数百年も前から行われており、宮廷衣装の紋様表現として用いられてきました。括りの模様が子鹿の斑点に似ているところから「鹿の子絞」と言われます。室町時代から江戸時代初期にかけて、辻が花染として盛んに行われるようになり、江戸時代中期には、鹿の子絞の全盛期を迎えました。その後も手先の技は着実に受け継がれて来ています。

京繻（きょうぬい）

京繻は、平安京が造られた時、刺繻をするための職人をかかえる織部司という部門が置かれたのが始まりとされています。江戸時代中期に、宮崎友禅齋が友禅染を完成させるまで、刺繻は、鹿の子絞、摺り箔とともに布地を加飾するための重要な方法でした。特に、経済力を持つようになった町人たちによって作り出された「寛文文様」と呼ばれる新しいデザインの表現の中で、刺繻は重要な役割を果たしました。

染織図案

明治時代に入り、型紙を使って染める「写し友禅染」の技術が開発され、それに伴って型を彫るための下絵が必要となり、京都に図案家が誕生しました。当初は絵師が余技として着物の下絵を描いていましたが、需要の拡大とともにそれを専門とする人が出てきたのです。図案家は日本の伝統的な文様の意匠や歴史、文化的意味を熟知しそれを継承しながら、常に時代に即した新しい図案を創り出しています。

染色補正

染色補正とは、京友禅や西陣織など着物や帯を染めたり織ったりする工程の途中で起きた故障（汚れやシミなど）を修正する仕事です。また、お客様が着ておられる時に付いた汚れや保管中の傷みもお直ししています。酵素や薬品を駆使し元の状態へと戻していきます。

和布

西陣織や京友禅、京小紋、京鹿の子絞など、京都で今も作られる素晴らしい染織品。それを「布」という素材としてとらえ、そこに込められた技術や意匠そして歴史と文化を大切にしながら、洋服やドレス、バッグ、そしてインテリアなど和装以外の分野でも京都発の新たなファッションを創造しています。

5. お問い合わせ先

京都駅ビルインフォメーション 電話 075-361-4401 (10:00~19:00)

または京都伝統産業協働バンク(財団法人京都産業21内) 電話 075-315-8677 (8:30~17:00)